

# 第72回日本PTA全国研究大会川崎大会に参加して

(第56回関東ブロック研究大会川崎大会)

富士市PTA連絡協議会(副会長) 橋本 仁

【第72回日本PTA全国研究大会川崎大会】に、参加させていただきました。

下記にご報告をします。

## 1. 大会概要

☆ 大会スローガン：ウェルビーイングの実現を、川崎の地から ～活かそう「縁」の力～

☆ メインテーマ：社会の大きな変化を学び、進化を考えるPTA活動

自己肯定感を高め合い、活力あるPTA活動

誰も取り残さない、居場所を大切にするPTA活動

☆ 本会場：とどろきアリーナ(川崎市)

☆ 大会1日目：2024年8月23日(金)13時～18時

特別第1【日本PTA担当】⇒全体基調講演【社会教育・今日的課題】⇒特別第2【文部科学省協力、地域連携・人権教育】⇒セッション①【今日的課題・社会教育】…

☆ 大会2日目 24日(土)8時30分～12時40分

セッション②【家庭教育】⇒セッション③【学校教育・地域連携】⇒記念講演【今日的課題・人権教育】⇒12:00～12:40 大会宣言・閉会行事…

詳細は、川崎大会HPをご参照ください (<https://ptakawasaki.group/r6-kawasaki-conference/>)

## 2. 所感

・従前の研究大会では大会1日目にテーマ毎で分散した分科会、2日目に大きな1つの会場で全体会をするのがお決まりであったのですが、川崎大会では初めての試みとして『参加者が一つの会場に集い、様々な分野に及んで大きく変化する様子とその本質とを集中して共有しながら学び、その大切さを感じられる場にしたい』ということで、【とどろきアリーナで一堂に会した上での2日間での開催】となりました。

・また、講演やパネルディスカッションをただ聞くだけではなく、【県・地区等で色分けされたリストバンドを異なった色の方と4人一組で座る】ことにより、他県・他地区の方とセッション等で話しをさせていただき、新たな気づきや考え等をシェアすることにも繋がりました。

・【ウェルビーイング】とはいう『言葉』自体は、巷でよく聞くようになりましたが、結局なんなのか。始めは自分自身も良く分かっていなかったところです。

・happiness(ハピネス)ではなく、【身体的・精神的・社会的に良好な状態。特に、社会福祉が充実し満足できる生活状態にあること】とも言われていますが、定義等は様々なようです。

・登壇された方々は、日本PTA協議会役員・各地区PTA役員等だけに留まらず、学識経験者・有識者やNPO法人代表・教育評論家や文部科学省の官僚等…バラエティ豊かな人選でした。

・それらの方々はテーマに沿ってお話しをされていくのですが、自分の中にストーンストーンと入って

いくようでした。

・太田敬介氏（日P会長）…PTA誕生からの実績等とこれからの存在意義。例えばPTAは「子どもたちの幸せ」を願い続けてきた組織。**【PTA活動を通じて子どもたちも私たち（大人）も幸せでありたい！その連鎖が、支えあいのあふれた暮らしやすいまちづくり、地域づくりに繋がる。】**等

・内田由紀子氏（京大・教授）…全国のPTAの『縁』をいかし力強く進める教育環境改善への提言として、多様性・開放性など、個人を尊重・他者や社会のための行動を考える・日本的な協調性の良さを活かす・【より寛容な社会であること】…**【教育現場でできること】として、場のウェルビーイングに向かったの共有意識・信頼関係の醸成・開かれた学校経営・ウェルビーイングな学校づくりに参画することによるウェルビーイングの循環モデルの生成していこう！**。

・西村博之氏（NPO法人理事長等）…川崎市子どもの権利条例（2001年4月施行）に携わった経験から、川崎市子ども夢パーク設置⇒『川崎市子どもの権利条例』の具現化を目指した青少年教育施設（映画『ゆめパのじかん』がNHK『ドキュメント72時間』で、視聴者が選ぶ2022年度の年間ベスト1となる）増え続ける不登校児童生徒数は、2023年10月時点で約30万人（中学生17人に1人）いじめが一番多く報告されているのは【小学校2年生】という現実。子どもの自死も2022.2023年度は500人超えとなっている（毎日1人以上どこかで亡くなっている）…日本の子どもの特徴として、自己肯定感が低い（自分のことを「バカ」「ダメ」と語る）⇒【『正しさ』『完璧』を求めすぎる家庭・弱音が吐けない家庭環境が多い】…ユニセフでの調査で、日本の子どもの精神的幸福度は、38か国中37位。子どもにとって『遊ぶ』とは【生きることそのもの】これからの子どもに求められる力って何だ？⇒いま、最も注目されているのが【非認知能力（数値化できない力）】。学校に行けないだけで、自らのちを絶つ子どもたち⇒自己効力感・自己有用感を育む⇒【安心して失敗できる環境づくり】…「ケガ」や「失敗」を恐れて、挑戦すらしめない子どもが増えている。生きづらさを抱える若者の中に「0・100」タイプの人を良く見かける。「出来ないこと」を受け入れる力も大事。「学校に行かない」（大人たちの不安が子どもたちを追い詰める）⇒【親を支える取り組みが必要】夢パークの合言葉【大人の良かれは、子どもの迷惑！】その子どもにとって、「最善の利益は何か」を考える。【子ども・若者が望むことは『困ったときに助けてくれる』人と場…指導や「支援臭」から若者は遠ざかる。【大切なのは、その子の存在まるごとを肯定的に見るまなざし】これだけでいい。（子どもの権利条例策定子ども委員会からのメッセージ）**【まず、大人が幸せにいてください。大人が幸せじゃないのに、子どもだけ幸せにはなれません。大人が幸せでないと、子どもに虐待とか体罰がおきます。条例に“子どもは愛情を持って生まれる”とありますが、まず、家庭や学校、地域の中で、大人が幸せでいてほしいのです。子どもはそういう中で、安心して生きることができます。】**という子どもからの言葉が深く刺さりました。

・土屋美樹氏（文科省 初等中等教育局 児童生徒課 生徒指導第一係長）…小・中学校における不登校の状況について⇒増加傾向。**【誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）】**について説明⇒学校には来られるが、自分のクラスに入れられない⇒校内教育支援センター。家からは出られるが、学校には来られない⇒（各教育委員会等の）教育支援センター・民間団体等。家から出ることが出来ない⇒オンラインの活用・アウトリーチ支援。と、それらの取り組み（実例）の紹介等。

・吉田田タカシ氏（「トーキョーコーヒー」代表）…学ぶとは正解を暗記する事ではなく、答えを追求し自分達でつくること。未来を自分で作るスキルを身につけ、【人生の消費者ではなく“つくり

手”になること】。「知識」は考える素材・「体験」は感覚ごと学ぶ。**【貧困や孤独やうつや精神疾患やLGBTQ+や発達障害や変わり者、不思議ちゃん・落ちこぼれなどと呼ばれるマイノリティは“ネガティブ”ではない。子どもを均質化する教育に未来はない】**。

・親野智可等氏（教育評論家）…朝型・夜型や猫派・犬派等の違いについて、遺伝的要素が強く、子どもの段階では矯正は難しい（出来ない）。それらは環境だという方もいるが、“兄弟姉妹で性格が違うのはなぜ？等の説明は出来ない。”ある程度大人にならないと考えや習性は直らない。例えば、「早く寝なさい」というのは、本当に遅刻する経験等により、遅刻をすると〇〇になる⇒〇〇さん面倒くさいから、遅刻しないようにしなきゃ…という“ある程度のモチベーション”が必要。小さなうちは直らない。そんなことで家族仲を悪くしないように、**【家族間を良い関係性で保つことが重要。褒めること・自己肯定感を高めることが重要。】**

・クローラン悦子氏（川崎市立南加瀬小学校PTA会長）…“ほめることの重要性”と“実践活動”**【ほめ写プロジェクト】**について、遠洋漁業のパパさんの話を基に、よく通る場所へ家族写真等を貼る⇒年に数か月しか会えなくてもパパっ子になる。また、兄弟・姉妹で仲良くしている写真を貼ること&『あなた達はいつも仲良しだね』等により、静止画でも普段見ること（刷り込み）で親近感や愛情が育まれる。また、〇〇で頑張った写真を貼ることで、やる気・自己肯定感も高められる等の簡単でも出来ることを発表。実際に、ほめ写プロジェクトをママ友たちへ積極的に紹介している。

・前野マドカ氏（EVOL株式会社代表取締役CEO）…『ウェルビーイングを社会へ広げることの大切さ』をテーマに講演。8年間のPTA活動のウェルビーイングの実践と変化について⇒①自分からの声かけ（挨拶・感謝）②笑顔を忘れず③いつもワクワク④良い点に目を向ける⑤伸びしろを信じる⑥何のため？（考える）⇒ウェルビーイングをつくる栄養素①体の栄養（例 食事）②心の栄養（例 言葉・声かけ）⇒幸せなPTA活動（今日の目的は？どんな場にしたいか？みんなが楽しく参加出来ているか？みんなの力を借りる。俯瞰してみる&バランス⇒“幸せは人それぞれ！”（『きみだけの幸せってなんだろう？』（自著の紹介）⇒①やってみよう（自己実現と成長）②ありがとう（つながりと感謝）③ありのままに（独立と自分らしさ）④なんとかなる（前向きと楽観）⇒

**【夢や目標を持ち、多様な人とのつながりを大切に、前向きに自分らしく生きる人が幸せ】**⇒自分のWell-Beingを考えよう！⇒自分を**知る**・自分を**信じる**・自分を**好き**になる。⇒『まずは私たちから自分らしく生きるを体現しよう！』でべています。

※本大会では、個人宣言を設定することが重要です。大会を通じて色々と学びましたが、

**【①ほめ写の周知と実践】【②全国大会等で得た知識等を市P連・単位PTA・家庭へフィードバックさせる】**をしていきたいと思えます。

・来年度の全国研究大会は石川大会です。被災した関係で大会を受けるかどうか大変悩まれたご様子でしたが、川崎大会以上の熱気に包まれることを期待するとともに、今後も富士市PTA連絡協議会として、単位PTAとしてもモチベーションを上げて取り組んでいきたいと強く思いました。

・最後に、たまたま会場で近くにいたためにセッション等でシェアした（1日目）栃木県の小林さん、山口県の坂本さん、浜松市の金子さんと（2日目）神奈川県綾瀬市の谷田さん・小菅さん、沖縄県宜野湾市の比嘉さんに感謝するとともに、川崎大会にご尽力いただいた関係者の皆様にも感謝をしたいと思います。**【ありがとうございました】**

以上